

資源と空間

田中 伸彦

(独立行政法人森林総合研究所, 東海大学観光学部)

要旨

本論では、1996年以降にわが国で行われたレジャー・レクリエーション(以下:レク)資源と空間に関わる動向を考察した。手順としては、まずわが国で行われたレジャー・レク資源と空間に深く関わる施策の変遷について、「法律の制定」という観点からとりまとめた。続いて、学会誌「レジャー・レク研究」に掲載された資源と空間に関連する文献を総括し、研究のトレンドを考察した。そして、両者を比較することで、レジャー・レク学会で、資源と空間に係る研究の関心がどの様なトピックに集中的に向けられてきたのか、逆にどの様なトピックが手薄だったのかを明らかにした。最後に、その結果を受けてレジャー・レク学会における資源と空間分野の研究の将来的な展開方向について若干の提言を行った。

第1章 緒言

本論は、1996年以降にわが国で行われたレジャー・レク資源や空間に深く関わる施策や研究の動向をとりまとめ、新しい時代を見据えた研究の課題や方法論などを展望することを目的としている。

本論で1996年以降のレビューを行うこととした理由は、既報『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み—1964～1995—』を受け¹⁾、1995年以降の動向をまとめるからという単純な理由によるものである。

しかしながら、この1995年という年を今から振り返ってみると、わが国のレジャー・レクの資源や空間を語る上で、とても重要な節目の年になっていたことが分かる。

この年は、1月17日の早朝5時46分に阪神・淡路大震災に見舞われ、3月20日に東京で地下鉄サリン事件が発生している。死者・行方不明者6千4百余名、負傷者4万3千余名の犠牲者を出した天災、乗客・駅員ら12人が死亡、5千5百余名が重軽症を負った人災という相異なる2つの災害を通じ、わが国の都市空間の安全神話はもろくも崩れ去った。安全神話は、今や郊外や農山村空間でも崩壊しつつある。しかし、その対策としてボランティアや地域住民のつながりを見直す議論が起り、NPO活動への世間の評価が高まった。NPO活動は災害復旧に留まらず、今ではレジャー・レク資源・空間管理の主体として大きな存在となっている。つまり、1995年を契機に、わが国では地域の資源や空間に関わる市民の態度が大きく一変したのである。

また、この年はWindows95が発売された年でもあった。日本語版が11月23日に発売されやいなや、瞬く間にWindowsはパソコンOSの実質的な標準となり、その後のインターネット社会の基盤となった。つまり、1995年を契機に、インターネットが広く普及し、レジャー・レクの資源情報の調達や、空間認識のあり方を一新し、人々のライフスタイルを抜本的に変えてしまった。

さらに、1995年前後を俯瞰すると、バブル経済崩壊後の不況がわが国を襲っている。1985年のプラザ合意以降のバブル景気真っ直中には、わが国では投機を目的としたリゾート開発が各地で流行し、国土の様相が変貌した。バブル終焉のきっかけは、1990年3月の大蔵省通達「土地関連融資の抑制について(総量規制)」といわれ、以降景気が後退するわけであるが、多くの国民が不況を実感するようになるのは1990年代半ばからであった。ちなみに住専問題は1995年、北海道拓殖銀行や山一証券の破綻は1997年である。レジャー・レク資源の観点から見ると、1990年代後半から21世紀にかけて、わが国では都市や中山間地域が疲弊し、経済活性化や地域振興の手段として観光レジャー資源や空間の活用が目ざされた。

最後に、この時期には大規模リゾート開発の反省から自然保全が声高に叫ばれ、さらに温暖化対策や生物多様性などの地球環境問題が輪をかけ、レジャー・レクの分野でも環境を真剣に考える時代に突入した。実際近年では、低炭素社会や生態系サービス、エコ・グリーンツーリズムや文化的景観などがレジャー・レク研究でもキーワードとなりつつある。

以上、1995年という年を総括すると、未曾有の不景気に突入する中、国民の安全安心感が揺らぐ一方で、NPO活動やインターネットによる新たな社会が構築され始めた年であり、また環境に配慮したレジャー・レクを考える時代になったと総括できる。

このような背景を鑑みたと、わが国のレジャー・レク行政がどのような施策を展開し、研究はどのように進展したのかを、以下に概括したい。

第2章 レビューの方法

本論では、①「行政施策に関するレビュー」と、②「研究動向の文献レビュー」の2つを行った。なお、紙数に制限があるため、施策の動向は国内に絞り、研究内容は本学会誌上で公表されたものに絞った形で報告を行うこととした。

①「行政施策に関するレビュー」では、「法律の制定」に着目し、レジャー・レクの施策的関心を取りまとめた。法律とは「国会で制定された規範」と定義する。通常わが国では毎年100から200あまりの法律が新たに制定・改正され、公布されている。法律が制定・改正されるということは、わが国において、これまでとは異なる行政施策が必要になったことを示している。そのため、レジャー・レクに対する国民的関心の動向を捕まえるために「法律」を対象とすることは効果的である。

②「研究動向の文献レビュー」では、学会誌「レジャー・レク研究」に掲載された資源及び空間に係る文献を総括し、トレンドを取りまとめた。他の学会誌の文献等も併せてのレビューも検討したが、1996年から2009年までに「レジャー・レク研究」に掲載されたこの分野に関する論文・特集記事・学会発表要旨・ポスター・シンポジウム等の文献は優に100件を超えるため取り止めた。本論の最終目的である「レジャー・レク学会における『資源と空間』分野の研究の将来的な展開方向についての提言」を行うには、本学会誌掲載分で十分と判断した。

第3章 施策と研究の動向と特徴

1. 法律の制定に見る「行政施策に関するレビュー」

1996年から2009年までの間に、わが国では2,024件の法律が制定・改正されている。そのうち、レジャー・レクに係る法律は、基準の取り方で前後するが130件程度認められた。そこから「資源・空間」に関係深い主要な法律44件を抜粋したものが表1である。

44件の法律を趣旨別にタイプ分類すると、①自然(20件)、②文化(16件)、③経済(20件)、④参画(7件)という4つの大項目に分類できた。

さらに、大項目「①自然」は、

- a. 自然保全（環境影響評価法(1997)、生物多様性基本法(2008)など13件）、
- b. 利用管理（自然公園法(2002/2009改正)やエコツーリズム推進法(2007)など9件）、
- c. 地球環境（地球温暖化対策の推進に関する法律(1998)など8件）、

の3つの小項目に細分できた。

大項目「②文化」は、

- a. 文化維持（文化財保護法(1996/2004改正)や食育基本法(2005)など12件）、

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- b. スポーツ（スポーツ振興投票の実施等に関する法律(1998)など3件）、
- c. 景観（文化財保護法（2004改正）や景観法(2004)など6件）、
- d. IT（知的財産基本法(2002)など3件）、

の4つの小項目に細分できた。

大項目「③経済」は、

- a. 都市再生（都市再生特別措置法(2002)、構造改革特別区域法(2002)など8件）、
- b. 地域振興（森林・林業基本法(2001)、山村振興法（2005改正）など14件）、
- c. 観光（旅行業法（2004改正）、観光立国推進基本法(2006)など16件）、

の3つの小項目に細分できた。

大項目「④参画」は、

- a. NPO（特定非営利活動促進法(1998)など4件）、
 - b. 福祉・平等（高齢者・障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律(2006)など3件）、
- の2つの小項目に細分できた。

つまり、行政施策に関するレビューでは、この時期の「資源・空間」からの施策的関心4項目に大別可能で、さらに12件に細分可能なことが明らかになった。

表1 1995年から2009年までに制定された、レジャー・レク資源及び空間に関連する主な法律（抜粋）

No	制定年	法律名	キーワード	自然			文化			経済			参画		
				自然保全	利用管理	地球環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉平等
1	1996	文化財保護法（改正）	登録有形文化財				○								
2	1997	アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律	アイヌ文化の振興等				○								
3		環境影響評価法	開発行為の環境アセス	○											
4		外国人観光旅客の来訪地域の多様化の促進による国際観光の振興に関する法律	外国人観光客来訪地の分散									○			
5		平成十七年に開催される国際博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律	愛知万博									○			
6	1998	特定非営利活動促進法	NPO 法人					○					○		
7		スポーツ振興投票の実施等に関する法律	TOTO					○							
8		美術品の美術館における公開の促進に関する法律	登録美術品の公開促進				○								
9		地球温暖化対策の推進に関する法律	地球温暖化対策の基本方針			○									
10	1999	男女共同参画社会基本法	男女共同参画												○
11		食料・農業・農村基本法	農の多面的機能	○	○							○			
12	2000	循環型社会形成推進基本法	循環型社会		○										
13	2001	森林・林業基本法	森林の多面的機能	○	○							○			
14		沖縄振興特別措置法	沖縄の観光振興									○	○		
15		都市再生特別措置法	都市再生事業								○				
16	2002	自然公園法（改正）	利用調整地区		○										
17		文化財の不法な輸出入等の規制等に関する法律	文化財の輸出入				○								
18		高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（改正）	建築物のバリアフリー												○
19		知的財産基本法	知的財産の保護管理						○						
20		自然再生推進法	自然再生計画		○										
21		構造改革特別区域法	経済特区								○	○	○		

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

22	2003	環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律	環境教育	○	○		○																
23	2004	文化財保護法（改正）	文化的景観・民俗技術				○		○														
24		旅行業法（改正）	旅行業務取扱管理者など																○				
25		特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	外来生物と生態系保全	○			○																
26		景観法	景観計画の策定など	○					○				○	○	○	○							
27	2005	半島振興法（改正）	地域間交流の促進																	○	○		
28		山村振興法（改正）	山村振興基本方針																	○	○		
29		地域再生法	地域再生計画																	○	○	○	
30		食育基本法	食育・食文化				○		○														
31	2006	農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律（改正）	農林漁業体験民宿業者																	○	○		
32		国土形成計画法	国土形成計画	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
33		中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律（改正）	中心市街地の活性化																		○		
34	2006	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	交通機関のバリアフリー																		○		
35		海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律	文化遺産国際協力																		○		
36	2007	観光立国推進基本法	観光基本法の全面改正				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
37		海洋基本法	海洋基本計画	○																			
38		農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律	農山村活性化				○														○	○	
39		エコツーリズム推進法	エコツーリズムの推進	○	○																○	○	
40	2008	観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律	観光圏整備計画																		○	○	○
41		地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律	歴史的風致維持向上																			○	○
42	2009	生物多様性基本法	生物多様性国家戦略	○			○																
43		自然公園法・自然環境保全法（改正）	生物多様性・海域公園地区	○	○	○																	
44		美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律	海岸漂着物等の円滑な処理	○																	○		
			計（小項目）	13	9	8	12	3	6	3	8	14	16	4	3								
			計（大項目）	20			16				20		7										

* 「○」印は法を制定・改正した主要な目的を示す。

2. レジャー・レク学会で公表された文献を中心とした研究動向のレビュー

続いて、学会誌33号(1996年)から63号(2009年)までに掲載された「資源・空間」に関する文献をレビューしたところ、140件が該当した。これらを上記の「行政施策に関するレビュー」で得た4件の大項目、12の小項目に沿って取り纏めた。

①自然

「自然」にかかる大項目では、計58件の文献を見ることができた。これは全件中41.4%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 自然保全

ここでは9件の文献が確認された。これは全件中の6.4%にあたる。

内訳は、まず自然環境とレジャー・レクの総論的考察²⁻⁴⁾、環境意識を調査した文献⁵⁾⁶⁾などが見られた。また、世界の保護地域の動向⁷⁾⁸⁾や、国立公園の成立⁹⁾、里山環境とレジャー・レクとの関わり¹⁰⁾など、対象を絞って言及した考察も見ることができた。

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、環境影響評価や農林水産業との関わり、生態系サービスなど手つかずの研究を深めることで、学会の幅が広がると考えられた。

b. 利用管理

ここでは45件の文献が確認された。これは全件中の32.1%を占める。つまり、当学会で、利用管理が多くの会員の関心を集めるトピックであることを示している。

内訳は、まず利用管理とレジャー・レクとの関わり¹¹⁻¹⁴や、施策の動向¹⁵など、俯瞰的な考察が見られた。また、キャンプにまつわる利用管理¹⁶⁻²⁵、キャンプの海外事例²⁶⁻²⁷、自然とのふれあい²⁸⁻³¹、教育的利用³²⁻³⁸、都市公園³⁹⁻⁴⁰や自然公園⁴¹⁻⁴⁶の利用管理、自然公園の海外事例⁴⁷⁻⁴⁸、水辺水面の利用⁴⁹⁻⁵³、トレイル管理⁵⁴⁻⁵⁵など、トピックごとの考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、比較的満遍なく研究が展開されていた。敢えていえば食育などの文化利用へ将来研究を広げる余地が残ると考えられた。

c. 地球環境

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。つまり、当学会ではこのトピックにはあまり関心が高くないことを示している。

内訳は、クッチャロ湖学生環境サミット⁵⁶と、エベレスト登山における環境評価⁵⁷⁻⁵⁹の2種類に分けられた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、温暖化や循環型社会との関わり、海洋・農地・森林の空間管理、生物多様性保全など、地球環境保全の視点で研究に着手すべき多くのトピックが残されていると判断できた。

②文化

「文化」にかかる大項目では、計35件の文献を見ることができた。これは全件中の25.0%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 文化維持

ここでは6件の文献が確認された。これは全件中の4.3%にあたる。つまり、当学会の関心度はさほど高くないといえる。但し、文献はすべて2003年以降のものであり、今後増加する可能性がある。

内容は、神楽⁶⁰、花見⁶¹、湯治⁶²というトピック別研究の一方、文化的景観の保全という施策を念頭

に置いたケーススタディ⁶³が見られた。また、学会大会時に行われている地域研究の報告⁶⁴⁻⁶⁵もこの分野に該当する。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、文化財や歴史、民俗など、研究に着手すべき多くのトピックが残されていると判断できた。

b. スポーツ、

ここでは10件の文献が確認された。これは全件中の7.1%にあたる。

内訳は、伝統的町道場⁶⁶や、新興の総合型スポーツクラブ⁶⁷⁻⁷⁰、高齢者の温水スポーツ施設⁷¹⁻⁷²の研究に加え、空間環境と運動生理・心理の関係調査⁷³や海外事例調査⁷⁴、オリンピック・レガシーに関する報告⁷⁵なども見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、文献数はさほど多くはないがスポーツ振興という時代的テーマに沿った研究の存在が確認できた。

c. 景観

ここでは15件の文献が確認された。これは全件中の10.7%にあたる。

内訳は、景観認識⁷⁶⁻⁸⁰⁾と評価⁸¹⁻⁸³⁾、構造・特性⁸⁴⁻⁸⁷⁾、活用⁸⁸⁻⁹⁰⁾の4トピックである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、景観法の制定に合わせて時代的テーマに沿った研究がなされていると考えられた。

d. IT

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。

内訳は、デジタル・アーカイブ⁹¹⁾、メディア・ビオトープ⁹²⁻⁹³⁾、GISの活用⁹⁴⁾の3トピックである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、ITによるレジャー・レク空間資源・施設の変容が著しく、国土形成計画などでもITの活用が謳われている今日にあっては研究が少ないと判断できた。また、研究人材も限られている。学会としてITに係るレジャー・レク研究に力を入れる必要があると考えられる。

③経済

「経済」にかかる大項目では、計22件の文献を見ることができた。これは全件中の15.7%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a. 都市再生

ここでは3件の文献が確認された。これは全件中の2.1%に過ぎない。

内容は、都市再生とレジャー・レクとの関わりを広く論じた報告⁹⁵⁾や、「住育」によるまちづくり⁹⁶⁾、ディズニーに見るレジャー産業⁹⁷⁾に係るものである。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、当学会ではさらに、レジャー・レク資源・空間を通じた国土形成や都市再生、中心市街地の活性などをテーマに採り上げた議論を行う必要があると考えられた。

b. 地域振興

ここでは9件の文献が確認された。これは全件中の6.4%にあたる。

内訳は、まず地域興しとレジャー・レクの総論的考察⁹⁸⁻¹⁰¹⁾が見られるとともに、都市山村交流¹⁰²⁻¹⁰³⁾や、リゾート新興¹⁰⁴⁻¹⁰⁵⁾、イベント新興¹⁰⁶⁾など、トピックを絞って言及した考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、山村や沖縄などの島嶼・半島など地域振興の必要性が叫ばれている地域におけるレジャーのあり方について研究を深めることが重要と考えられた。

c. 観光

ここでは10件の文献が確認された。これは全件中の7.1%にあたる。

内訳は、観光史¹⁰⁷⁻¹⁰⁹⁾や広域計画¹¹⁰⁻¹¹¹⁾、グリーン・ツーリズム¹¹²⁻¹¹⁴⁾、山岳観光¹¹⁵⁾、テーマパーク¹¹⁶⁾の5つのトピックに渡っていた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、インバウンドツーリズムとレジャー、博覧会などMICEとの関係、エコツーリズムの推進などの分野に研究を広げる余地があると考えられた。

④参画

「参画」にかかる大項目では、計25件の文献を見ることができた。これは全件中の17.9%にあたる。以下、小項目ごとにその内容をとりまとめる。

a.NPO

ここでは21件の文献が確認された。これは全件中の15.0%にあたる。つまり、当学会で、NPO・ボランティアなどのトピックが会員の関心を集めていることを示している。そして、このトピックの文献はこの5年以内に集中的に増加しているのも特徴的である。

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

内訳は、まず市民参加・NPOとレジャー・レクの総論的考察¹¹⁷⁾¹¹⁸⁾が見られるとともに、地域づくり・まちづくり¹¹⁹⁾¹²⁷⁾や二次的自然環境の管理¹²⁸⁾¹²⁹⁾、都市緑地の管理¹³⁰⁾¹³²⁾、都市公園の管理¹³³⁾¹³⁵⁾、トレイル管理¹³⁶⁾¹³⁷⁾など、対象毎のNPOやボランティアの参加について言及した考察も見られた。

この結果を「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、NPO法以降の世の中の動向を踏まえた実践的な研究が蓄積していると考えられる。今後はこの蓄積を元にレジャー・レク学の資源・空間管理におけるNPOやボランティアのあり方について学問的に取り纏める作業が必要であると考えられた。

b. 福祉・平等

ここでは4件の文献が確認された。これは全件中の2.9%に過ぎない。つまり、当学会ではこのトピックにはあまり関心が高くないことを示している。

内訳は、すべて自然を利用した療法に係る研究¹³⁸⁾¹⁴¹⁾であった。

この結果を、「行政施策に関するレビュー」と併せて考察すると、高齢者や障がい者のレジャー・レク資源の利用に関する研究や、男女共同参画に伴う変化とレジャー・レクのあり方など、多くの未着手の課題があると考えられた。

第4章 「資源・空間」分野の研究の将来的な展開方向について

以上、第3章でレビューした内容を表2として取り纏めた。

表2を見てまず言えることは、当学会は数百人規模と決して大きな学会ではなく、「資源・空間」という分野はその学会内の一研究分野に過ぎないものの、4つの大項目そして12の小項目のすべてに研究の手が伸びていることである。各分野によって粗密はあることは否めないが、学会としての偏りが無いという点では評価できよう。ただし、内容を細かく見ていくと、当学会では「資源・空間」分野といえども「利用管理」や「NPO」などの人の動きに直接関わる研究に注目が集まっていることがわかる。一方、「自然保全」、「地球環境」、「文化維持」、「地域振興」などの項目については、法律の制定(改正)数が多く、施策的関心が高いと言えるのだが、必ずしも研究的比率は高くない傾向が見られた。また、ITに関しては法律数も研究数も多いとは言えないが、今後集中的に研究を進めていく分野ではないかと考えられた。

本学会で新規に取り組み可能と考えられるトピックとしては、表2の下段にまとめたとおり24種類を提言した。もちろん、本論で得た結論のほかにも成すべき研究が指摘できるという異論は妨げない。「法律の制定」という事実の対比を行っただけでも、これだけのトピックが見つかったということである。

日々変化する社会環境の中で、よりよい人生を全うするためのレジャー・レクのあり方は今後ますます重要になると考えられる。そのためにも当学会が果たすべき役割はまだまだ大きいという感想を持った。

表2 確認された法律・文献数と将来に向けた研究方向の提言

【法律：重複カウントあり】

大項目	自然			文化			経済			参画		計	
法律数	20			16			20			7		44	
(比率：%)	(45.5)			(36.4)			(45.5)			(15.9)		(100.0)	
小項目	自然保全	利用管理	地球環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉平等	—
法律数	13	9	8	12	3	6	3	8	14	16	4	3	44
(比率：%)	(29.5)	(20.5)	(18.2)	(27.3)	(6.8)	(13.6)	(6.8)	(18.2)	(31.8)	(36.4)	(9.1)	(6.8)	100

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

【文献：重複カウントなし】

大項目	自然			文化				経済			参画		計
文献数	58			35				22			25		140
(比率：%)	(41.4)			(25.0)				(15.7)			(17.9)		(100.0)
小項目	自然保全	利用管理	危機環境	文化維持	スポーツ	景観	IT	都市再生	地域振興	観光	NPO	福祉等	—
文献数	9	45	4	6	10	15	4	3	9	10	21	4	140
(比率：%)	(6.4)	(32.1)	(2.9)	(4.3)	(7.1)	(10.7)	(2.9)	(2.1)	(6.4)	(7.1)	(15.0)	(2.9)	(100.0)

提 言 (本学会で新規取り組み 可能と考えられる トピック)	環境影響評価	文化財	国土形成計画	NPO 論の総括
	農林水産業	歴史資源・空間	都市再生	高齢者参画
	生態系サービス	民俗資源・空間	中心市街地の活性	障がい者参画
	食育	ITの活用全般	山村新興	男女共同参画
	温暖化		島嶼・半島の活性	
	循環型社会		インバウンドツーリズム	
	海洋・農地・森林		MICE	
	生物多様性保全		エコツーリズム	

引用文献

- 1) 日本レジャー・レクリエーション学会、日本レジャー・レクリエーション学会の歩み —1964～1995—、レジャー・レクリエーション研究 32:217pp、1995.
- 2) 進士五十八、レジャー・レクリエーションと自然環境、レジャー・レクリエーション研究 50、1-14、2003
- 3) 古谷勝則・油井正昭・下村彰男・加地隆・親泊素子・田畑貞寿、レジャー・レクリエーションから見た自然環境、レジャー・レクリエーション研究 50、15-40、2003
- 4) 土屋薫、生態系資源と文化系資源をつなぐライフデザイン—架け橋としてのレジャー・レクリエーション—、レジャー・レクリエーション研究 63、10-11、2009
- 5) 石井晶子・澤村博・高橋正則、居住場所の違いによる日常生活での自然環境の必要性と環境保全意識の関連性について—都内幼稚園に通園させる母親を対象として—、レジャー・レクリエーション研究 47、1-9、2002
- 6) 種石宗自・加藤幸直・澤村博、大学生の環境意識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 63、92、2009
- 7) 油井正明・古谷勝則、世界各国の自然保護地域の指定動向について、レジャー・レクリエーション研究 37、90-93、1997
- 8) 油井正昭、世界各国における野外レクリエーションに関わる保護地域の発展とその特徴、レジャー・レクリエーション研究 55、44-47、2005
- 9) 油井正昭、伊勢志摩国立公園成立の特異性、レジャー・レクリエーション研究 57、70-73、2006
- 10) 岡田慎也・下嶋聖・麻生恵、大都市近郊地域における鉄道会社が行う里山などの環境を利用したレクリエーション空間の整備に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 59、44-47、2007
- 11) 麻生恵、「あそび」と空間—「あそび」の広がりと「あそび」空間整備の方向—、レジャー・レクリエーション研究 47、33-36、2002
- 12) 栗田和弥、自然環境フィールドにおける遊びと活動と管理の展開、レジャー・レクリエーション研究 47、60-61、2002
- 13) 麻生恵・田中伸彦・栗田和弥・上野裕治、景観・造園・環境「地域のアウトドア・レクリエーションと資源・空間の管理」、レジャー・レクリエーション研究 49、口頭発表、2002
- 14) 麻生恵・荒井歩・栗田和弥、景観・造園・環境「地域のアウトドア・レクリエーションと資源・空間の管理」、レジャー・レクリエーション研究 51、22、2003
- 15) 田中伸彦、アウトドアライフ充実のための行政施策—林野庁の施策を中心に—、レジャー・レクリエーション研究 33、38-44、1996
- 16) 岡村泰斗・飯田稔・星野敏男・穴戸和行、環境プログラムを導入したキャンプの効果—参加者の自然に対する態度、イメージに着目して—、レジャー・レクリエーション研究 33、1-6、1996

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 17) 柳敏晴、キャンプにおける水辺活動の価値 レジャー・レクリエーション研究 37、78-81、1997
- 18) 小泉紀雄、エコキャンプによる環境への意識変容について、レジャー・レクリエーション研究 39、94-97、1998
- 19) 廣田治久・栗原邦秋、地域活動と少年・少女キャンプについての実践報告～江東区少年の船の場合～、レジャー・レクリエーション研究 41、92-93、1999
- 20) 関智子・飯田稔・岡村泰斗、長期・短期自然体験が参加者の達成動機に及ぼす効果の比較、レジャー・レクリエーション研究 41、94-97、1999
- 21) 岡村泰斗・飯田稔・関智子、子ども長期自然体験村事業に関する評価研究 -参加者の達成動機、友人関係、自然認識に着目して-、レジャー・レクリエーション研究 44、1-10、2001
- 22) 吉原さちえ・西野仁、子どもの頃の組織キャンプ経験と現在の野外活動経験、レジャー・レクリエーション研究 51、90-93、2003
- 23) 山下雅彦、民間野外教育活動団体における長期キャンプの実践、レジャー・レクリエーション研究 61、134、2008
黒杭美郷・山下雅彦、長期キャンプにおける参加者の疲労の推移、レジャー・レクリエーション研究 61、135、2008
- 24) 恩田裕介・加藤幸真・澤村博、大学キャンプ実習の参加者によるキャンプ場の施設評価、レジャー・レクリエーション研究 61、135、2008
- 25) 馬場美智子、公園整備の視点からみた余暇活動のためのまちづくりに関する考察、レジャー・レクリエーション研究 63、18-21、2009
- 26) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの変遷に関する研究 -キャンプに関する諸団体の動きとそのキャンプ活動を中心として-、レジャー・レクリエーション研究 36、1-17、1997
- 27) 陳盛雄・栗田和弥・麻生恵、台湾におけるキャンプの発展に影響を与えた諸要素に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 44、35-45、2001
- 28) 藤田均、西表国立公園における野生動物とのふれ合いを中心とする自然教育事例、レジャー・レクリエーション研究 33、24-36、1996
- 29) 村田智厚、自然とふれあえる環境デザイン、レジャー・レクリエーション研究 35、31-38、1996
- 30) 奥田直久、アウトドア活動におけるプログラムの現状と課題、レジャー・レクリエーション研究 35、39-46、1996
- 31) 栗田和弥・植竹薫、自然とのふれあい活動への参加者誘致圏について～東京都町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 41、98-101、1999
- 32) 田中伸彦、レジャー・レクリエーション研究における基本書 アンケート調査の概要、レジャー・レクリエーション研究 36、25-41、1997
- 33) 前野淳一郎、レジャー・レクリエーション研究における基本書「環境計画」空間・環境形成研究（造園学）の分野から、レジャー・レクリエーション研究 36、52-57、1997
- 34) 栗田和弥・麻生恵、農山村地域における環境教育－群馬県川場村の事例－、レジャー・レクリエーション研究 38、35-38、1998
- 35) 塚本瑠一、都市における自然観察会について～京都御苑での事例～、レジャー・レクリエーション研究 39、88-89、1998
- 36) 濱野周泰・二階堂由紀・牧昌代・栗田和弥、環境学習のための富良野研修ツアー報告、レジャー・レクリエーション研究 55、94、2005
- 37) 菱沼みほ・栗田和弥、自然学習における教材の作成～磐梯朝日国立公園・磐梯山を対象とした地形＋情報模型パズル～、レジャー・レクリエーション研究 57、111、2006
- 38) 寺田祐子・山下雅彦、中山間地域と都市地域における自然体験活動の意識調査、レジャー・レクリエーション研究 59、69、2007
- 39) 養茂寿太郎、レジャー・レクリエーション環境としての公園の考察、レジャー・レクリエーション研究 37、94-97、1997
- 40) 金子忠一、バンクーバーにおける公園レクリエーションプログラムの現状、レジャー・レクリエーション研究 37、98-99、1997
- 41) 古谷勝則・油井正昭、日光国立公園尾瀬地区における自動車の利用規制について、レジャー・レクリエーション研究 46、43-46、2001
- 42) 加治隆、休暇村の立地課程と野外レクリエーション空間構造及び利用形態の特徴、レジャー・レクリエーション研究 52、23-36、2004
- 43) 加治隆、宮古・姉ヶ崎半島のリゾート開発における国民休暇村の役割と貢献、レジャー・レクリエーション研究 53、86-89、2004

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 44) 津田智匡・金子良知夫・下嶋聖・麻生恵、尾瀬ヶ原を事例としたレクリエーション空間と利用者属性からみた利用計画のあり方について－ROS (レクリエーション区分プログラム) の概念を用いて－、レジャー・レクリエーション研究 55、95、2005
- 45) 川口香・下嶋聖・麻生恵、自然公園の利用計画から見た乗鞍山麓五色ヶ原の利用システムについて、レジャー・レクリエーション研究 55、98、2005
- 46) 井上麻美・下嶋聖・一木重夫・麻生恵、小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題、レジャー・レクリエーション研究 55、100、2005
- 47) 金子良知夫・下嶋聖・麻生恵、東アジア地域の山岳国立公園における登山利用行動の管理手法の比較～富士山(日本)、玉山(台湾)、キナバル山(マレーシア)を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 53、112-115、2004
- 48) 涂智益・下嶋聖・栗田和弥・麻生恵、台湾国家公園の発展と多様な主体の参画に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 60、55-69、2008
- 49) 荒井歩・春日章宏、東京湾内における釣り場環境の実態に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 39、102-105、1998
- 50) 添田直人、ボート競技による水辺環境の復権－親水メディアとしてのボートの中心価値－、レジャー・レクリエーション研究 61、56-59、2008
- 51) 古城庸夫、利根運河とボート遠漕－向島艇庫村から銚子までの遠漕の歴史－、レジャー・レクリエーション研究 61、60-63、2008
- 52) 山下雅彦、バリ島におけるラフティング参加者のリスク認知に関する研究～日本人参加者に着目して～、レジャー・レクリエーション研究 63、24-27、2009
- 53) 添田直人、水元公園(東京都・葛飾区)でボートが漕げるまで～水辺空間の再構築に関する考察～、レジャー・レクリエーション研究 63、28-31、2009
- 54) 平方敦・岸昌孝・栗田和弥、武尊山百漫歩(100km)トレイルの道づくりと管理運営に関する課題、レジャー・レクリエーション研究 57、111、2006
- 55) 岩間貴之、遊歩道(フットパス)を利用するイギリス田園風景の楽しみ、レジャー・レクリエーション研究 47、57-59、2002
- 56) 平田太良・白銀頭・栗田和弥、クッチャロ湖学生環境サミット(CASEI)について、レジャー・レクリエーション研究 61、136、2008
- 57) 下嶋聖・麻生恵、サガルマータ(エベレスト)登山活動と周辺地域の観光利用が自然環境に及ぼす人的影響、レジャー・レクリエーション研究 53、120-123、2004
- 58) 下嶋聖・島田沢彦・佐貫安希子・入江満美・麻生恵、サガルマータ(エベレスト)登山がベースキャンプに及ぼす環境影響についてのシミュレーションの試み、レジャー・レクリエーション研究 55、99、2005
- 59) 下嶋聖、エベレスト・ベースキャンプにおける登山活動が自然環境に及ぼす影響調査と環境保全の取り組み、レジャー・レクリエーション研究 62、115-116、2009
- 60) 迫俊道、地域社会における神楽の社会学的研究、レジャー・レクリエーション研究 51、94-95、2003
- 61) 油井正昭、「江戸名所花暦」に見るサクラの名所と花見の様相、レジャー・レクリエーション研究 53、90-93、2004
- 62) 伊藤雅子・西野仁、湯治の実態と湯治に対する意識について、レジャー・レクリエーション研究 55、32-35、2005
- 63) 田中伸彦・黒田乃生、吉野林業地域における文化的景観の保全、レジャー・レクリエーション研究 55、84-87、2005
- 64) 田中伸彦、「都市レジャーの今昔」報告、レジャー・レクリエーション研究 54、23-26、2005
- 65) 田中伸彦、「歴史文化探訪」報告、レジャー・レクリエーション研究 56、83-87、2006
- 66) 高橋賢・西野仁、武道における町道場の現状、レジャー・レクリエーション研究 51、106-107、2003
- 67) 高橋伸、総合型地域スポーツクラブ推進事業におけるレクリエーション概念の適用－M市における試みについて－、レジャー・レクリエーション研究 51、110-111、2003
- 68) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの設立に向けた2年間の取り組み～神奈川県育成指定クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 55、60-63、2005
- 69) 吉原さちえ・西野仁、総合型地域スポーツクラブの運営の実態～神奈川県内18クラブを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 57、44-47、2006
- 70) 吉原さちえ・西野仁、求められる総合型地域スポーツクラブ～神奈川県内総合型地域スポーツクラブのクラブ理念やその目的を参考にして～、レジャー・レクリエーション研究 59、48-51、2007

〔Ⅲ〕 特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 71) 徳田つづる・上岡洋晴・岡田真平・本田卓也、温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究～ケアポートみまき・温泉アクティブセンターを事例として～、レジャー・レクリエーション研究 57、68-69、2006
- 72) 徳田つづる・上岡洋晴・岡田真平・本多卓也、温水プール利用者の特性と利用決定要因に関する研究～高齢者総合福祉施設「ケアポートみまき・温泉アクティブセンター」を事例として～、レジャー・レクリエーション研究 62、61-73、2009
- 73) 島崎百恵・西野仁、空間環境と運動時の生理・心理機能について、レジャー・レクリエーション研究 51、112-115、2003
- 74) 久保内智子・西野仁、ドイツのゴールドプランの展開とベルリン州のスポーツ施設、レジャー・レクリエーション研究 51、108-109、2003
- 75) 栗田和弥、レジャー・レクリエーションの充実に寄与するオリンピック・レガシー 空間論・環境論の立場から、レジャー・レクリエーション研究 60、75-77、2008
- 76) 栗原雅博・古谷勝則・油井正昭、霧ヶ峰における草原景観の興味対象に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 46、39-42、2001
- 77) 佐藤芳郎・猪瀬怜子、地図指摘法による阿蘇の草原景観に関する地域住民の認識構造についての研究、レジャー・レクリエーション研究 49、70-71、2002
- 78) 猪瀬怜子・佐藤芳郎・麻生恵、地図指摘法を用いた阿蘇の草原景観に対する地元住民の認識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 52、1-10、2004
- 79) 山下賢太郎・朝日隆太・麻生恵、山形県金山町における周辺環境や住民の属性の違いと景観認識に関する調査研究、レジャー・レクリエーション研究 55、97-98、2005
- 80) 高梨夏美・麻生恵、棚田における景観体験構造に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、112、2006
- 81) 陳盛雄・川村協平・前野淳一郎、キャンプ場の個性的な魅力づくりに関するアンケート調査～日本・台湾・ヨーロッパのキャンプ場の景観写真による～、レジャー・レクリエーション研究 37、128-131、1997
- 82) 多田充、景観が人間の生理・心理に与える影響、レジャー・レクリエーション研究 46、51-54、2001
- 83) 下嶋聖、山小屋の屋根形状の特性が外観評価に及ぼす影響について～北アルプス・雲の平山荘を事例として～、レジャー・レクリエーション研究 61、52-55、2008
- 84) 油井正昭、尾瀬山の鼻・見晴間の木道から眺める景観の構造、レジャー・レクリエーション研究 43、106-109、2000
- 85) 油井正昭、磐梯朝日国立公園裏磐梯高原の眺望景観特性、レジャー・レクリエーション研究 46、47-50、2001
- 86) 加治隆、国民休暇村における眺望景観の形成とその特徴、レジャー・レクリエーション研究 55、88-91、2005
- 87) 加治隆・油井正昭、国民休暇村の景観構成の特徴とその評価に関する研究・大見八幡と大山鏡ヶ成を事例として、レジャー・レクリエーション研究 60、1-13、2008
- 88) 大澤由紀子・麻生恵、棚田のレクリエーション利用における視点場の設計について、レジャー・レクリエーション研究 53、108-111、2004
- 89) 園部真依子・古谷勝則・油井正昭、富士箱根伊豆国立公園箱根地域における展望施設の実態と評価、レジャー・レクリエーション研究 55、95-96、2005
- 90) 大西広司・鹿島善晴・恵谷浩子・麻生恵、輪島市三井地区における農村景観の保存・活用手法に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、112、2006
- 91) 土屋薫、デジタル・アーカイブと観光ナビゲーションシステムの可能性、レジャー・レクリエーション研究 53、84-85、2004
- 92) 土屋薫、メディア・ビオトープ構築に関する基礎的研究、レジャー・レクリエーション研究 57、76-77、2006
- 93) 土屋薫、現代社会と情報行動の特質から見た「メディア・ビオトープ」の枠組み、レジャー・レクリエーション研究 59、38-39、2007
- 94) 林香織・土屋薫、ライフスタイルに根ざしたコミュニケーションネットワーク構築に向けた基礎研究－GISを用いた流山市民の生活行動分析－、レジャー・レクリエーション研究 63、85、2009
- 95) 徳村光昭・鈴木隆雄・西川嘉輝・西野仁、ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 56、63-81、2006
- 96) 藤井廣男・甲斐徹郎、「住育」が生み出す地域主体の連鎖による、ここちよい環境(まち)づくり、レジャー・レクリエーション研究 63、88、2009
- 97) 嵯峨寿・上澤昇・栗田房穂・犬塚潤一郎・坂田信久、レジャー・レクリエーション産業「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」、レジャー・レクリエーション研究 51、23、2003
- 98) 森川貞夫、地域興しとレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 61、10、2008

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 99) 小田切毅一・田村貢・西原康行・池良弘・上山寛、「地域興しの手法としてのレクリエーション」再検討、レジャー・レクリエーション研究 61、11-15、2008
- 100) 森川貞夫、「地域興し」とレクリエーション・スポーツ、レジャー・レクリエーション研究 62、75-84、2009
- 101) 田村貢・西原康行・池良弘・上山寛・小田切毅一、「地域興しの手法としてのレクリエーション」再検討-新潟市における諸事例から-、レジャー・レクリエーション研究 62、85-99、2009
- 102) 嶋野弥名子・栗田和弥・麻生恵、群馬県川場村友好の森における「やま(森林)づくり塾自然教室」について、レジャー・レクリエーション研究 37、82-83、1997
- 103) 宮林茂幸、都市と山村の交流とレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 38、27-34、1998
- 104) 笠木秀樹、岡山県における農村リゾートの研究、レジャー・レクリエーション研究 37、104-107、1997
- 105) 小泉勇治郎、地域づくりと農村リゾート～愛媛県上浮穴郡久万町の事例を通じて～、レジャー・レクリエーション研究 39、90-93、1998
- 106) 山下雅彦、中山間地域における冬季スポーツイベントに関する研究～広島県高野町の事例について～、レジャー・レクリエーション研究 59、70、2007
- 107) 早川章治・鈴木誠・服部勉、鮮魚センターを中心とした寺泊町観光の形成に関する史的考察、レジャー・レクリエーション研究 37、100-103、1997
- 108) 田島栄文、西宮市レクリエーション活動協会の歩みと地域貢献への課題、レジャー・レクリエーション研究 61、134、2008
- 109) 田島栄文、大正期から昭和初期の阪急・阪神沿線における遊覧書、レジャー・レクリエーション研究 63、87、2009
- 110) 田中伸彦、森林観光・レクリエーションに関わる資源・施設の地域ポテンシャル算出に関する考察～笠間地域を対象としたケーススタディ～、レジャー・レクリエーション研究 41、102-105、1999
- 111) 小泉勇治郎、西四国観光ネットワーク「ルーラルポケット」に関する一考察、レジャー・レクリエーション研究 43、110-113、2000
- 112) 小泉勇治郎、グリーン・ツーリズム運動と市民農園、レジャー・レクリエーション研究 49、72-75、2002
- 113) 笠木秀樹、グリーンツーリズムの振興に関する一考察～バイエルン州における現状と課題～、レジャー・レクリエーション研究 39、98-101、1998
- 114) 山下雅彦、中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について～広島県北部の取り組みに着目して～、レジャー・レクリエーション研究 55、64-67、2005
- 115) 下嶋壘・麻生恵、山岳観光地における団体客の観光利用の実態、レジャー・レクリエーション研究 53、116-119、2004
- 116) 関口英里、現代日本にレジャー空間におけるイベント戦略の展開と可能性～テーマパークを中心とした外来祝祭の"Japanization"～、レジャー・レクリエーション研究 63、32-35、2009
- 117) 松本清・栗田和弥・麻生恵、「景観・造園・環境」分野自然体験型レクリエーション空間の利用計画と運営-空間の利用を支える新しい技術と人-、レジャー・レクリエーション研究 55、19、2005
- 118) 栗田和弥、市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究、レジャー・レクリエーション研究 55、96-97、2005
- 119) 小泉勇治郎・山下陽一郎・片岡麻里、こどものあそびに関する一考察-阪神大震災を通してみるこどものレクリエーション活動-、レジャー・レクリエーション研究 34、86-89、1996
- 120) 岩間貴之・栗田和弥・麻生恵、横浜市緑区中山中学校区域内におけるワークショップ方式による花と緑の市民まちづくり、レジャー・レクリエーション研究 37、84-87、1997
- 121) 朝日隆太・麻生恵、花と緑のまちづくりにおける地域住民の認識に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 57、110、2006
- 122) 矢野加奈子・麻生恵、農山村における空間計画ワークショップに期待される効果とその構造化に関する研究～長野県千曲市嬬捨地区を対象として～、レジャー・レクリエーション研究 59、40-43、2007
- 123) 権田浩康・今井健・木村悦之・麻生恵、麓地区(富士朝霧高原)における参加共同型の地域づくりについて、レジャー・レクリエーション研究 59、72、2007
- 124) 山本亮・矢野加奈子・麻生恵、輪島市三井町における地域の魅力発見ワークショップについて、レジャー・レクリエーション研究 59、73、2007
- 125) 松島由佳里・麻生恵、輪島市三井町におけるワークショップとその効果について、レジャー・レクリエーション研究 61、136、2008
- 126) 脇谷翔太郎・麻生恵、まちづくりや環境整備における多様な主体と地域の関係構造に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 63、22-23、2009

〔Ⅲ〕特別企画「レジャー・レクリエーションの研究をめぐる動向と将来展望」

- 127) 石幡愛、地域にあるものを活かした遊びと学びの場づくり－谷根千地域におけるワークショップ開発とまちづくりを通じて－、レジャー・レクリエーション研究 63、85、2009
- 128) 影沢裕之・栗田和弥・永嶋正信、市民による雑木林における活動に関する研究、レジャー・レクリエーション研究 37、88-89、1997
- 129) 牧安奈・麻生恵・栗田和弥、二次草原における環境保全ボランティアの参加意識について－阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として－、レジャー・レクリエーション研究 55、96、2005
- 130) 栗田和弥・植竹薫、市民NPOによる緑地の利用・管理の参加者誘致圏について～東京町田市かしの木山自然公園を事例に～、レジャー・レクリエーション研究 39、106-107、1998
- 131) 佐野光昭・濱野周泰・西村直人・麻生恵、三鷹市「緑のボランティア講座」活動報告、レジャー・レクリエーション研究 55、94、2005
- 132) 薄井美江・山内良豊・麻生恵、町田市きつねくぼ緑地における市民参加型管理運営活動と参加者の意識、レジャー・レクリエーション研究 55、99-100、2005
- 133) 西川嘉輝、環境教育をはじめとする様々な市民活動の場としての公園緑地、レジャー・レクリエーション研究 55、15、2005
- 134) 今井健・栗田和弥・麻生恵、横浜市青葉区の「美しが丘西追分公園」の愛護会活動について、レジャー・レクリエーション研究 59、71、2007
- 135) 今井健・栗田和弥・麻生恵、横浜市美しが丘西追分公園における愛護会と地域の関わりについて、レジャー・レクリエーション研究 61、137、2008
- 136) 麻生恵、「多摩丘陵における市民による遊歩道ネットワークづくり」見学会報告、レジャー・レクリエーション研究 47、54-55、2002
- 137) 岸昌孝・栗田和弥、利根川上流における「武尊 100 漫歩トレイル」の市民による整備・運営計画について、レジャー・レクリエーション研究 55、97、2005
- 138) 瀧邦夫、園芸療法とレクリエーション、レジャー・レクリエーション研究 38、39-46、1998
- 139) 上原巖、療養活動としての森林作業の試み、レジャー・レクリエーション研究 38、47-54、1998
- 140) 上原巖・佐々木健司、自閉症療育における里山を利用した山林活動の可能性、レジャー・レクリエーション研究 40、59-67、1999
- 141) 井川原弘一、森林浴におけるリラックス効果、レジャー・レクリエーション研究 57、105、2006